



「五無人間」にはなるな！！

いつの時代にも若者は大人世代から「今どきの若い連中ときたら・・・」とか「根性が無い」とか「シラケ世代」とか言われてきた。

何を言われても反応が乏しく、覇気がなく、変にさめているように見えるからそう言われているのだが、元々は若い人たちが「シラケる」という言葉を使っていたことにも原因の一部がある。

世の中の変化や政治的なこと、会社や会社を取り巻く環境などにはあまり興味・関心は無いというか、冷ややかに眺めて虚無的になっているように見えることからそう言われてきたのかも知れない。

また、会社での仕事も先輩や上司から指示や、命令されたことは何とかやるのだが、必要最小限のことだけで、それ以上のことは積極的にやろうとはしない。そんな感じの若者を呼称して言う時もある。

もちろん私の若い頃もそうだった。

丁度、高度経済成長が終焉したオイルショック以降の1970年代には四無主義というのが流行っていた。

無気力、無責任、無関心、無感動の四つである。

これを一言で表現した言葉が「シラケる」ということなのであろうが、まさに言い得て妙である。

しかし、時代はこれで終わらない。1980年代になるとこの四つに挨拶もろくにしない「無作法」が加わり、五無となったのである。

これを称して「五無主義」というのはおこがましく、「五無人間」というそうである。

アニメ大国日本でベストセラーにもなっている「ワンピース(One Piece)」の主人公のモンキー・D・ルフィーは悪魔の実であるゴムゴムの実を食べて「ゴム人間」になったが、その意味のゴム人間ではない。

無気力、無責任、無関心、無感動、無作法の「五無人間」である。「五無人間」は、あらゆるコミュニティー（家族、企業、地域社会、国など）を内部から崩壊させていく。

「五無人間」になってはいけない！！

